

平成27年 第2回

京田辺市議会定例会
一般質問通告書

京田辺市議会

平成27年議会通告第2回 一般質問 例目次

通告順位	議員名	ページ
1	南部登志子	1
2	小林喜代司	3
3	河田美穂	4
4	岡本亮一	6
5	西畑利彦	7
6	横山榮二	10
7	河本隆志	12
8	上田毅	14
9	増富理津子	15
10	次田典子	16
11	鈴木康夫	18
12	岡本茂樹	19

1 先の統一地方選挙結果を踏まえ、市長の認識を問う

- (1) 市長選の投票率の低下と僅差での当選結果を鑑みると、数字上において、市長は市民の半数以上から信託を得られたとは言えない。この点についての市長の認識は。
- (2) 今回の市長選については、明確な争点のない選挙であり、そのことが投票率の低下に繋がったと考える。しかしながら、僅差で次点であった候補者が1万票以上を獲得されたということは、そこに何らかの市民の期待や課題があったと認識する。それらの点についての市長の認識を問う。

2 鉄道会社および系列会社が市内に所有する土地や建物について

- (1) 鉄道会社および系列会社が市内に所有する土地や建物で、いわゆる休眠状態になっているものについて、場所や面積はどれぐらいになるのか、詳細に述べよ。
- (2) 休眠状態になっている土地や建物が存在することは、鉄道会社および系列会社にとって経営上マイナスになっているだけではなく、活性化や有効利用という観点からは、本市にとっても大きなマイナス要因となっているはずである。今後の方針について、各会社と協議すべきと考えるが、市の認識を問う。

3 地産地消について

- (1) 市として、地元の野菜や米を扱う商店および飲食店を奨励することで、市内における地元野菜・米の取扱量を増やす努力をすべき。
- (2) 学校給食で、「まるごと京都」ではなく、「まるごと京田辺」の日を設定し、地元の野菜や米を食べる機会を増やすよう努力してほしい。

4 安心安全に暮らすために

- (1) 新しく移転した三山木保育所の周辺道路の安全確保を。
- (2) 最近、西八地区で盗難が多発していると聞く。パトロールを強化するなど対策を求める。
- (3) 府営住宅の高齢化は著しい。全ての棟にエレベーターが設置できるよう京都府に働きかけを。
- (4) 井手町に新しく支援学校ができることになり、数年後には本市の子どもさんが通うことになる。しかしながら、交通アクセスの課題があり、保護者の間で不安が広がっている。市の認識を問う。
- (5) 今夏もデング熱が流行すると予測されている。本市でも対策を。

5 普賢寺小学校コミュニティスクールについて

- (1) 今年度よりスタートしたが、準備段階で関わってきた事務方のスタッフがほぼ総入れ替えになり、地域では強い怒りの声が上がっている。なぜそうなったのか、今後の体制をどうするのか、教育長に問う。
- (2) 自然や農業への関わりだけでは、これまでの普賢寺小学校の取組みと何ら変わるところがない。コミュニティスクールとして何を目指そうとされているのか。

1 市の農業政策について

TPP がらみで農業は非常に厳しい状況にある。国や京都府では、強い農業づくりに各種の方策を打ち出している。管内の京都やましる農協では、強い農業づくりに対して各種の事業を進められているが、本市としてどのような支援策を考えているのか。

2 普賢寺地域の活性化促進と地域で開催される国際的な自転車レース「ツアー・オブ・ジャパン」に対する本市の対応について

- (1) 普賢寺地域の農業に対して、各種に事業が検討されている。被害が増加している有害鳥獣の駆除を含めて、本市として積極的に支援策を講じる必要があるが、市の考えについて。
- (2) 地域の活性化の一つとして国際的な自転車レースである「ツアー・オブ・ジャパン」が平成 28 年に開催される。今後の計画について。

3 学校給食の地産地消の現状と今後の拡大促進について

本市では、「まるごと京都の日」を設けて学校給食の地産地消に努力されているが、今後の地場産品の利用拡大と促進について。

4 内水排除対策について

平成 25 年の台風 18 号による大雨により、市内各地で冠水して住宅や農作物に被害が発生した。内水排除のため樋門の改修が早急に必要と報告されたが、現状と今後の計画について。

1 市民サービスの充実について

- (1) 「ひきこもり」専用の相談窓口を設置すべき。
- (2) 子育て課題にワンストップで対応する窓口を設置すべき（そのワンストップの拠点となる「子育て世代包括支援センター」を設置してはどうか）。
- (3) 保育所に、産休・育休明け入園予約制度を創設すべき。

2 安全・安心のまちづくりについて

- (1) 消防団の新たな担い手づくりのために、「学生消防団活動認証制度」を導入してはどうか。
- (2) 「防災士」の活動の場を増やし、拡充にも力を入れるべき（市職員の防災士も拡充を）。
- (3) 「浄水装置付き自転車」を避難訓練などでもっと活用し、台数も拡充すべき。

3 動物の殺処分ゼロへについて

- (1) のら猫の繁殖防止のための不妊手術に助成をすべき。
- (2) 2012年「豊橋市小中学生話し方大会」最優秀賞に選ばれた、殺処分について考えさせられる「78円の命」を小中学校の道徳の教材として活用してはどうか。

4 自転車の安全について

- (1) 自転車が安全に走行できる環境を整えるべき。
- (2) 市民や小中学生に安全講習をもっとすべき。

河田 美穂

(3) 自転車保険加入を促すべき。

1 中学校給食の実施について

- (1) 中学校昼食弁当提供事業（選択式デリバリー弁当）が導入され1年が経過したが、どのように評価されているのか。また、2010年に「中学校給食の実施を求める請願」が全会一致で趣旨採択された。その請願趣旨に沿った実施を求める。
- (2) 安心・安全でおいしい給食を全校に提供できるよう仮称「中学校給食推進会議」を設置し、具体的な実施方針等について検討することを求める。

2 リフォーム助成制度について

- (1) 地域経済の活性化及び良好な住環境の向上の促進。また、地元建設業者の仕事確保と雇用を守るために、小規模企業振興基本法を生かした「住宅リフォーム助成制度」の実施を求める。
- (2) 市内の事業主が、店舗の改装や店舗等で使用する備品の購入に対して、その費用の一部を助成する「商店版リフォーム助成制度」の実施を求める。

3 地域防災対策について

一定以上の地震による揺れを感知すると、分電盤の電気を自動的に遮断する感震ブレーカーの購入や、設置費用の一部を助成する「感震ブレーカー設置助成制度」の実施を求める。

1 京田辺市の都市計画マスタープラン 全体構想 京田辺市の将来像と都市政策において

(1) 第3次京田辺市総合計画市民意識調査（平成16年6月）が行われ、21ページに住民の意識が整理されている。この結果に基づくまちづくりを行うと記載されているが、10年たった今、どのような検証がされているのか。

(2) 住環境保全型住宅ゾーンとして、京阪東ローズタウンから大住ヶ丘までの住宅地と一休ヶ丘周辺及び学研都市南田辺地区を具体的に指定されている。「住環境保全住宅ゾーン」の定義は、どのような形をイメージしているのか。

例えば、一休ヶ丘自治会は、開発時点に住まれた方と新興地に新たにお住いになられた子育て層が同居する形である。しかし、店舗は1件もない。お年寄りの方は買い物に行く歩道もなければバスも通勤者用に設定され昼間の便数も少ない。新田辺近辺への一極集中を改め、最低限必要な食料品店、病院、交番、循環バスの運行など兼ね備えたまちづくりとすべきである。

(3) その住環境保全住宅ゾーンに指定されている一休ヶ丘周辺で生活を行う上での課題が浮かび上がっている。

ア 自治会内では、ここ数年の間に、薪小学校近辺の大掛かりな開発を含め、数ヶ所で500戸以上の新興住宅が建設されている。共通して言えることは、旧住宅地を覆い込む形で逃げ場が断たれ、幹線道路との接合を不可能とする造成となっていること。

しかも、この建設による人口増で地域幹線道路（新田辺一休ヶ丘線）の車道や歩道幅員、開発による雨水の排水能力、急傾斜地対策などが放置されたままの状態、いつ災害が起きても不思議でない状況下にある。

本来なら開発業者が行うものとも考えられるが、その指導はどのよ

うな方針のもと行われているのか、危険個所を放置したままとなっていないか、そして、一休ヶ丘周辺の都市計画をとん挫させず実行すること。

イ 歩道の未整備（通学路としての基準が満たされていない）市道としての地域幹線道路（新田辺一休ヶ丘線）でありながらも歩道を整備しようとする動きが見受けられない。そもそも通学路の整備基準はどのように考えられているのか、市内全域・学区ごとでの通学路の整備率はどのようになっているのか、文科省指導である「ゾーン30」をすべての学区に適用しない理由はなぜか、これらの課題について「通学路交通安全プログラム」も活用し、具体的な年次計画を作成すべきである。また、管理瑕疵にもなりかねない凸凹や段差の解消、路面排水処理、付属施設・占用施設の再整理を行うこと。

ウ さらに、住宅地近辺での碎石採集場、生コン事業所、ごみ焼却場などにより、セメント・砂・埃・振動・騒音や生コン車洗浄による道路・側溝への影響など複数の苦情が上がっている。「住環境保全住宅ゾーン」から見た問題意識と改善に向けた取組みを明確にすること。

2 ごみ処理施設の建設に対して

ごみ処理施設の建設に対して、市はこれまで審議会で検討、自治会役員説明、近隣自治会への説明、パブコメの実施などを行ったとしているが、「いつ、どこで、だれが、どの資料で最適と判断したのか、経過がまるでわからない」と行政への不信感から来る苦情が寄せられている。住民への丁寧な説明が求められている。市職員が減少している中で、きめ細かな住民対応が行われにくくなっている。そうした中で自治会の役割りが重要と考えられるが、認識はいかがか。

3 小学校・幼稚園の校舎等拡充について

西畑 利彦

人口増大に伴う差し迫った小学校・幼稚園の校舎等拡充を塩貝前議員より過去から求めてきたが、その対応策と年次計画はどのようなになっているのか。

1 国民健康保険税の引下げを

- (1) 京田辺市のホームページでは、「国民健康保険のお手続き」で「国民健康保険は・・・日ごろから保険税を出し合ってお互いに助け合う制度です・・・」と書いてあるが、国民健康保険法第1条には「社会保障」と明記されている。国保は社会保障ではないのか、市長の認識について。
- (2) 国が低所得者対策強化などのために「保険者支援金」が実施される計画だが、それを活用して引下げが行われた自治体もあり、市の活用計画を明らかにしてほしい。
- (3) いろいろな人々から、国民健康保険が高いし、生活が苦しいと声をきくが、そうした意見にどう応えていくのか、市の見解を明らかにされたい。
- (4) 国保税の滞納者には、現在資格証は発行されていないが、未交付の方、税機構への移管された方、差し押さえされた方などがあるときくが、実態はどうか、それを克服するための方策を示してほしい。
- (5) 京都市などの経験からも、国の「保険者支援金」などを活用して、市民の願いに応え国保税を引き下げてほしい。

2 地域交通政策の抜本的強化を

- (1) 一昨年秋に臨時国会で交通対策基本法が確立された。本市でも「立法趣旨を踏まえ適切な交通政策の推進は必要と考えています」と答弁されているが、今はどこまで進んでいるのか。また、市の公共交通に対する基本的考えは。
- (2) バス検討委員会が8回開催されたが、今どんな役割をはたしているか、今日的にもっと充実・発展させるべきではないか。
- (3) マイカーの運転が困難になる高齢者層の増加、年金削減など高齢者の生活がかつてなく苦しくなっているなかで、高齢者のバス代の公的補助

など市独自で支援を行うべきと考える。

3 青年・雇用問題について

- (1) 青年の未来が暗くなる、労働法制の大改悪が今国会ですすめられているが、こんな法案がとおれば、ブラック企業が日本中ひろがる。このことについての市長の見解をお聞きしたい。
- (2) 青年から見て魅力ある京田辺市をつくり、住んでよかったと定住してもらうために、おもいきった青年対策がもとめられる。①ブラック企業根絶のための実態調査を強めること、特に京田辺市では同志社大学等もあり、多くの学生が生活しているため、アルバイトや非正規雇用の実態を把握すること②労働者の権利を周知徹底するために簡易パンフを高校・大学等に全員に配布すること③若い新婚家庭への家賃補助、これらへの対策をたてることをよびかけたい。
- (3) 日本社会の中で働く貧困層がふえている。年収200万以下は全国で一千万人以上、これは全国でも非正規が37%にも及んでいることがその原因。京田辺市の市職員の現状は50%以上が非正規にあり、計画的に正規職員をふやす努力をすべき。

4 地域要求について

- (1) 桃園小学校の留守家庭児童会の施設拡充を求める。空き地に新施設を。
- (2) 地域の人が憩える場所である大住ヶ丘の公園のベンチを新しいものに。
- (3) 大住ヶ丘西バス停に屋根を設置。虚空蔵谷のバス停の屋根の修理、大住ヶ丘のバス停の屋根を塗装し、環境の改善を。

1 子育て施策について

- (1) 市役所来庁者が手続きを行う際に、お子さんを見てもらえる小児用託児室、またはプレイルームやベビールームの設置も必要であると考えているが、見解は。
- (2) 一時保育を利用する場合の仕組みをもう少し弾力的にできないのか。

2 防災力の強化について

- (1) 市民や職員の防災訓練や危機管理などをさらに強化していく考えは。
- (2) 児童・生徒などに対する防災教育、また登下校時に災害が発生した想定での訓練も必要だと考えるが見解は。

3 雨水の利用について

- (1) 雨水タンクの助成制度を行う考えは。
- (2) 国土交通省から雨水の利用に関する基本方針が示されたが、今後の実施計画は。
- (3) 学校・幼稚園・保育所など公共施設に雨水タンクの設置を進めていくことも、施策の一つと考えるが見解は。

4 青少年の居場所づくりについて

- (1) 京田辺市の児童館では、青少年が利用しにくい実態であるが、現在の状況をどのように考えているのか。
- (2) 学童保育が6年生までの受入れになったことにより、利用する児童は中学入学と同時に環境が変化していく状況となる。それらを踏まえて

青少年の居場所づくりをどのように考えているのか。

5 公立幼稚園の問題について

- (1) 公立幼稚園の教職員が不足しているように聞いているが現状は。また、今後の対応をどのように考えているのか。
- (2) 現在、担任が正規職員ではないクラスもあると聞いている。正規職員、嘱託職員も含めた採用を行い、幼稚園の運営体制づくりを築くべき。

1 中学校における委託弁当の配膳方法について。また、中学校給食における方法としての提案。

- (1) 受注が少ない理由の中で配膳方法に問題があるようなので改善を試みては。
- (2) 完全給食も検討に入れて考えていくべき時期であると思うが、その方法として、小学校の給食調理で中学校の分も調理を行うことを提案する。

2 南部住民センター及び南部消防署の建設を求める

施政方針において、市南部における文化活動や地域コミュニティーの拠点機能の確保を進められる施策を掲げられ、南部住民センターと捉えているが市長の任期内に完成までこぎつけようとされておられるか。そして、南部消防署の建設を求めるが、市長の考えを伺う。

3 防犯カメラの設置について

本年は近鉄興戸駅前に設置されることになっているが、その後の設置予定などはどのような計画になっているか。

1 障がい者施策について

- (1) 新たに策定された障害者基本計画、障害福祉計画について問う。
- (2) 災害時要配慮者の支援体制、とりわけ障がい別の課題を踏まえて、聴覚障がい、視覚障がい、身体障がいなどに配慮した情報伝達、避難誘導、避難所運営への対策について問う。
- (3) 視覚障がい者施策の日常生活用具の見直しと給付条件の緩和、情報提供の取組み強化を。
- (4) 手話を言語として認め、聴覚障がい者が暮らしやすい社会づくりのためにも、手話言語条例の制定を。また市の手話通訳者の配置充実を。

2 教育施策について

- (1) 市民への大きな支援になっている就学援助制度の現状と充実への施策について問う。
- (2) 学校施設を計画的に整備していくためにも、整備計画の策定を。

3 エネルギーの地産地消、再生可能エネルギーへの取組みについて

市民は節電を意識すると同時に、再生可能エネルギー施策の具体化を求めている。「地域で作ったエネルギーを地域で活用する」という基本的な方向性を持ち、中小企業や地域の事業者も参画させ、地域内循環型経済の具体化を図るための政策が必要だと考えるが、市の考えを問う。

1 施政方針をふまえ、市長に問う

- (1) 戦争法案と言われる安保関連 11 法案が国会で審議入りしたが、平和市長会に参画している市長としてどのように考えるのか。
- (2) 先の市長選挙では、薄氷を踏む結果であり、多くの市民が現在の市政運営に不満があることがわかった。その認識と市長の反省点は何か。また、選挙戦において、無所属での立候補にも関わらず、特定政党の支援を市長は受けたが、不偏不党の市政運営ができるのか。
- (3) 防災に関し、世代や立場を超えて幅広い意見を聞くべきだ。

2 教育委員会に問う

- (1) 公立夜間中学について、文部科学省から調査結果が出たが、市教委の認識はどうか。
- (2) 市教委としては、どのように調査に対して答えているのか。
- (3) 幼稚園の預かり保育の現状はどうか。
- (4) 幼稚園での無資格者採用について。

3 選挙管理事務について

- (1) 投票所設置場所の見直しが必要だ。
- (2) 投票所に候補者のポスターを貼るべきだ。
- (3) 手続き書類の簡素化と公営ポスター掲示場地図のデジタル化など見直しが必要ではないか。

4 福島からの避難者への持続的支援を確立せよ

- (1) 市長は震災後の福島の現状をどのように認識しているのか。

次田 典子

(2) 京田辺市に避難している方々の状況はどのようなものか。

(3) 今後、どのように支援していくのか。

5 条例等の文章化の見直し

政務活動費や予算執行決裁権・役職等の明文化と見直し。

1 ツアー・オブ・ジャパンを大成功させよう

標記公認国際自転車レースが、「京都ステージ」として来年5月に本市と精華町で開催されることになった。本市を世界に発信する絶好の機会であり、是非とも成功させたい。

- (1) 関係する組織として、国際自転車競技連合（I C I）、京都府、精華町、そして本市が想定されるが、本市の位置付け役割を問う。
- (2) 競技関係者1,000人、見学者30,000人とも言われるが、その受入れを含め、現在の準備状況、課題、今後の計画を問う。
- (3) コース沿道には事業所・民家があり、これらの方へのPRと協力が不可欠と考えるがその対策を問う。
- (4) 会場運営ボランティアなど市民と協働の視点から計画を問う。
- (5) 一方で、自転車にやさしい市としてのまちづくりの視点から自転車道整備の進捗、計画を問う。

2 松井ヶ丘小学校の今後の施設整備計画は

昨年人口推計値を出されたが、現実の住宅開発状況等も勘案しながら計画をたてる必要がある。

- (1) 留守家庭児童会の建替えに伴う運動場狭小化に対する認識と対策を問う。
- (2) 現在、山手西戸建161戸、山手南二丁目戸建160戸、山手西マンション132戸が計画されておりここ数年で児童数の大幅な伸びが予測されるが、その対策を問う。
- (3) 市全体としての小学校区見直し計画はないとの方針は変わらないか。
- (4) 上記を踏まえ、松井ヶ丘小学校の第二運動場として山手南小学校予定地が考えられるが、市の見解を問う。

<p>1 文化振興計画の具体的推進方策を問う</p>
<p>(1) 文化振興懇話会の進捗状況はどうか。予定どおり2年間で完成するの か。</p> <p>(2) この中で、文化センター的な施設の整備をいつ頃図られる予定か。</p> <p>(3) 貴重な中央公民館の耐震化、バリアフリー化は具体的にいつ着手する か。</p>
<p>2 山手幹線通過交通の将来見込みと対策について問う</p>
<p>(1) 現状の車両通行状況について問う。そのうち大型車の通行量は。</p> <p>(2) 精華町まで道路が完成した暁には、通行量はどのように推測されるか。</p> <p>(3) 茶屋前交差点通行量の見込みと大型車の対策は。</p>
<p>3 防賀川の防災対策について</p>
<p>(1) 近年の集中豪雨による防賀川の溢水状況はどうか。</p> <p>(2) 防賀川の具体的な改修計画の進捗状況は。</p> <p>(3) 新しい樋門の設置、機能増強による減災対策を実施できないか。</p>
<p>4 空き家対策の実施について</p>
<p>(1) 市内の直近の空き家数の状況は。</p> <p>(2) 具体的な空き家の増加に対する課題と対策は。</p> <p>(3) 国の特措法に基づく条例化を進める必要はないか。</p>